



あすもりサポーター通信



道民の森で「第1回 コープの森育樹祭」を開催しました。



10月3日(土)、植樹8年目を迎えた道民の森(当別町)で、コープさっぽろ50周年記念イベントとして、初めての育樹祭を開催しました。昨年までは「育樹会」という名称で、あすもりサポーターや森づくりワークショップ(以下、WS)メンバーを中心に、木の成長を助けるため、春には雪で折れた木に添え木を当て、光をさえぎる草を抜き、秋には雪で折れないように保定をするなどの作業を行ってきました。回を重ねるごとに育樹の大切さと楽しさを感じ、より多くの方に体験してもらおうと企画したところ、180名の申込があり、バス4台で道民の森へ向かいました。



バスの中では、森づくりWSメンバーから「Fの森をどんな思いや考えでデザインしているか」を聞き、今日の育樹作業=草取りの説明を受けました。オオイタドリ、オオアワダチソウ、エゾノギシギシなどの草の写真を見ながら、「木が大きくなれば動物も下草も豊かな森の仲間ですが、苗木が大きくなるまでは抜かざるをえません。今日は心を鬼にして頑張りましょう」と話してくれました。



現地では実際に抜く草の見本を見ながら、根が残らないようにスコップを使って抜く手順や注意点をしっかりと聞いた後、バスの号車ごとに4チームで草の量を競うコンテスト形式で作業に臨みました。知らない人同士が声を掛け合い、力を合わせて抜き、チームごとに用意されたシートの上には草が次々と積み上がり、みるみる大きな4つの山ができました。審査員が計測に頭を悩ませた結果、僅差で優勝を勝ち取ったチームは大歓声を上げ、敗れたチームからは互いの健闘をたたえる温かい拍手が起こりました。子ども対象の「根っこが長いのだれだ賞」と、写真絵本作家の小寺卓矢さんが選んだ「ビジュアル賞」も好評でした。

昼食後、案内所前の散策コースに移動して「森の探検～森のビンゴ」を行いました。8チームに分かれて、鳥の声や川のせせらぎに耳を澄まし、木の幹の模様や葉っぱの大きさ、色、形などの特徴に目を凝らし、「森のビンゴカード」にあるものを探すゲームです。終了後はみんなで輪になり、拾った葉っぱや木の実など、お気に入りの発表を合いました。締めくくりは、森づくりWSメンバー・吉川さんのハーモニカ演奏で、「ふるさと」を合唱。森をバックにした合唱は深い感動に包まれました。帰りのバスの中では、開会式で撮影した集合写真が全員にプレゼントされるというサプライズもありました。

参加したみなさんからは「植樹した場所をまた訪れることができ良かった」「森を育てるには長い間の育樹が大切なことを知り、子どもにも良い経験になった」との感想が寄せられています。これからも、たくさんの方が森づくりに長く関わってくれることを期待しています(文/基金運営委員・金子祥子、写真/小寺卓矢)。



富良野自然塾自然体験企画を開催しました。

9月19日(土)、今年で9回目になる「富良野自然塾で植樹と自然を体験しよう」を開催しました。募集開始後すぐに申込が殺到する人気ぶりで、入学前のお子さんから80歳代まで100名での催行でした。あいにくの雨模様で、倉本聡さんの野外講演は中止かと心配しましたが、自然塾の配慮で富良野プリンスホテルの食堂を使わせていただきました。倉本さんは最近起こった鬼怒川の洪水を題材に、水と森林、そして広く地球環境につながる話をわかりやすく、やさしい語り口で話してくださいました。



昼食後はいよいよ環境教育プログラムです。雨もほぼ上がり、「裸足の道」をのぞくプログラムが体験可能となり、地球の46億年の歴史を縮小した460mのコースを歩いて、地球環境の変遷を体感しました。自然塾スタッフの身振り手振りの説明も適切でわかりやすく、コースの最後には地球環境に思いを寄せながら、ゴルフ場跡地で植樹をしました。



「富良野マルシェ」にも立ち寄り、富良野近辺の美味しい物もしっかりとゲットし、環境への思いと実的な満足感で大変充実した一日になりました(基金運営委員・会田彰)。



全道各地区から 全道各地で開催された「森とのふれあい企画」のようすをご紹介します。



全道区 ● 下川町 「森」と「木質バイオマス」見学会 [開催日] 9/15 ~ 9/16 [参加者] 28名

全道の組合員さんに呼びかけ、2日間かけて、下川町の森・木の活用を学ぶツアーに出かけました。初日は地元の市民団体「NPO 法人森の生活」のガイドによって森林セルフケアを受けながら、森を散策し、森に生息する生物の多様性や自然林と人工林の違いについて理解を深めました。

「木質原料製造施設」では下川町が環境未来都市として取組んでいるエネルギー自給の仕組み、木のゼロエミッション（木を無駄なく使い尽くす取組み）を学び、「一の橋椎茸製造工場」では、木質エネルギーを活用した森林産業の現状を見学しました。食事は下川町特産の手延べうどんや地元産野菜を使った料理をおいしくいただきました。参加者からは「森での森林浴、資源としての木の活用、循環型森林経営のお話など、とても充実した企画に参加できて良かったです」との感想をいただきました。



森づくりの取組みが、いきものにぎわい企業活動コンテストで受賞



「コープの森植樹祭と森づくりワークショップ」の活動が、「第4回いきものにぎわい企業活動コンテスト」（主催：実行委員会、後援：環境省・農林水産省、今年は78件の応募）において、「国土緑化推進機構理事長賞」を受賞しました。表彰式は「GEA 国際会議 2015（気候変動対策と持続可能な社会の実現に向けて）」の開会式の中で執り行われ、皇太子同妃両殿下・安倍総理・丸川環境大臣らが出席。審査委員長から「活動の継続性担保のために基金を設立し、北海道との協定を結び、道内14カ所のコープの森で植樹、育樹作業。延べ6000人の子どもからシニアまで幅広い市民が参加し、30000本を植樹。消費者・生活者の参加とすそ野拡大に貢献した点を評価した」と発表されました。森づくりの取組みが全国的にも高く評価され、喜ばしいかぎりです（基金事務局長・運営委員／稲垣一雄）。

【いきものにぎわい企業活動コンテスト】

企業がその社員や家族、地域社会や市民団体等と一緒に取組んでいる豊かな生物多様性の保全や持続的な利用等の実践的な活動を広く知らせるために行われています。公式ホームページに受賞理由などが掲載されています。どうぞご覧ください。 <http://mizumidori.jp/ikimono-nigiwai/>



森づくりワークショップ報告 / 道民の森Fの森(Fゾーン)

第3回森づくりワークショップ(9/26、参加者27名)



第3回森づくりWSは、2016年度の植樹エリアの決定と10月の育樹祭の準備作業を行いました。Fの森へ向かう前に、コープさっぽろが2005年に植樹した場所を訪れ、植えてから10年経ったトドマツなどが成長した様子を見学しました。10mを超す高さの樹が多く、うっそうとした森になっていました。WSメンバーは感嘆の声をあげ、思い思いにFの森の未来を思い描いていたようです。



2005年の植樹地

途中で動物の糞を見つけました。ヒグマにクワしいWS講師の山本牧さんは鼻がくつつくほど眺めた後で「ヒグマ」と推定。バスの中では「離農した農家の植えていた果樹などが格好のエサになっている」ことなどを興味深く聞きました。



Fの森ではまず、翌週行われる育樹祭に向けて、草と間違えて抜いてしまわないよう、苗木に目印を付ける作業を行いました。その後、植樹していない場所の地形や土の状態、どんなものが生えているかを確認しながら、ときには背の高い草をかき分けながら探索しました。昼食後は学習センターで、2016年度植樹エリアの決定と育樹祭の流れや役割分担などを打ち合わせました。植樹エリアについては2つのグループに分かれて意見交換を行って候補地を決め、思いを込めて発表しました。内容が盛りだくさんで忙しいワークショップでしたが、参加メンバーからは「楽しかった」という声が多く寄せられました。講師の山本さんも「メンバーひとりひとりに、森を見る力がついてきていることを実感。手ごたえを感じたワークショップでした」と話しています（基金運営委員／前濱喜代美）。